

# カトリック 中和田教会だより

第101号

昭和六十一年一月三十一日  
戸塚区中田町二七〇一  
カトリック  
中和田教会広報委員発行

TEL (803) 6141

## エキメニズムについて (2)

山崎神父

古い時代では自分たちの獲得を第一にし、何んだか怪し気な毒を持っているかもしれない他所者を警戒し排斥するのは仲間うちの平和を護るために、必要でなくこのべき方いに構えてあったので、その「病氣」にも似たものをなくするのには、或る意味で「おひとよし」に徹するならばよいのです。それは経験がさねた人類にとつて理性の発達があったからで、それでも「おひとよし」は思いやり深かいのでつけこまれ易く、誠実なのでたまされ易いから、しんどいことになりやすい。気がついている私自身もそれほど立派なことは云えはしないほどです。この愛の精神の保たれるところには神様の平和が実現する筈です。誰にでも同じことをするように求められたいとしても「おひとよし」がいたのでこの教会の内にもここにイエスマスマの精神が残り伝えられたいのです。イエスマスマこそ「おひとよし」の第一人者でしたから。それでも何んとかもつともろしい理由をつけて指導的立場に在る或る人たちは、戦争や権力闘争の明け暮れに現世的な栄華を追い求め、生き残るために教会の支配力を強め広めようと争い入るものは何んでも利用して種張りしました。批判する者や反対する者を見捨てることも平気でして見ます。そのお陰で受けこたえ教会は大きくなり、実とまた世界を覆うような圧力をかけることかできるようになり、うとしていられるのです。これはいくら「神の正義」に依るといわれたいも何んとなく、更なる正義の更なる感じをいりて方りません。私の感じはこ

よし、がいたのでこの教会の内にもここにイエスマスマの精神が残り伝えられたいのです。イエスマスマこそ「おひとよし」の第一人者でしたから。それでも何んとかもつともろしい理由をつけて指導的立場に在る或る人たちは、戦争や権力闘争の明け暮れに現世的な栄華を追い求め、生き残るために教会の支配力を強め広めようと争い入るものは何んでも利用して種張りしました。批判する者や反対する者を見捨てることも平気でして見ます。そのお陰で受けこたえ教会は大きくなり、実とまた世界を覆うような圧力をかけることかできるようになり、うとしていられるのです。これはいくら「神の正義」に依るといわれたいも何んとなく、更なる正義の更なる感じをいりて方りません。私の感じはこ

ることが全たたくの誤解であらばよいのです。他の宗派や宗教、他の思想の流れる人たちが、もとにも、それまでの精進の成果を承け合ひ、その善業を信じ、生きろゆるような方れたら、この願いが、その牛始めとしての私の教会一致への祈りともなつてきたのです。私の生きる姿勢のうちには、沢山の反抗的なものがあることを、自分でも感じており、もつとおたやかたしたいという願いにせめられ、おあります。それでも存せかあまりにも多すぎるこの世の矛盾を見、遅まきながら、これは何んとかしなげ、方るな、いという、あせりにも似た感情に突き動かされます。この世のしきたりの多くは、急には変えられ、いし、変え方いことはわかっています。とれで自分なりに小さな声をあげ、方から祈り、こけるわけです。他にも同じことを志す人が起ることを信じて、他の人の不幸や悲しみのもとに方る方いようには、まことに、みんなが神様のもとに仲良く助け合ひ方る、その毎日、さ過ごせる者でありますように。

## 委員会報告

一月二十六日午前九時のミサ後多数の傍者の出席の下で六十一年度信徒総会が開催され次の議題が審議されました。

- (一) 六十年活動結果概要報告  
中和田教会創立十周年記念特別行事として軟工費約一千四百万円をかけた集会所の建設が完了した。信者相互の親睦集会所建設資金の補助を目的として十月にバザーが開催された等々の報告があった。
- (二) 当教会所属信徒総数  
男五二五〇名 女二八四〇名(計)三〇九〇名
- (三) 会計報告  
六十年会計二般会計及び建設会計(収支決算)及び六十一年度予算について財務委員より報告があり、会計監査報告の後、出席者多数の賛同を得て採択されました。

- (四) 二粒会活動報告
- (五) 教会委員選任の件  
次の方々が今年度からの教会委員を担当されます。

- ・東原秀夫(重任)委員長
- ・小谷徳爾( )副委員長
- ・花坂洋一( )行事設備
- ・井上昭男( )子供会
- ・橋幸雄( )新会
- ・萩原政弘( )新報
- ・石井三雄( )新報

## 婦人会だより

一月十九日(日)婦人会総会と新年会が開催され三十五名が出席しました。

## 新役員名

- 会長 丸田綾子 岡津
- 副会長 七浦昭子 下飯田
- 会計 永島安子 踊場
- 典礼 上野明子 トリム
- 典礼 深井登美子 上飯田
- 書記 小野寺和子 中田
- 地区委員 ( )内は典礼、お茶当番月
- 中田 宮崎ヒトミ (一、七月)
- 下飯田 山田好愛 (二月)
- 上飯田 山田康子 (三、九月)
- トリム 竹田恭子 (四、十月)

帰場 大宮絢子(五、十一月)  
岡津 小山 恭子(六、十二月)

- (三) このあと、食事を共にし阿部映子様の出題ゲームを楽しみました。途中から神父様も御出席下さり、女子中高校生のリーダーとしての女子大生の参加とエレクソン奏者が欲しいという事、又中高校生の会に子供達かできるだけ出席する様お母様方が勧め下さり、この要望があった。
- (四) 連絡事項、お知らせ  
◎ 住持、地着等変更のあたりは神父様又は役員へ連絡下さい。
- ◎ 婦人会連絡網の中で次の方の訂正等お願ひします。  
石川様 局番(八〇三)→(八〇二)  
栄様 (八〇三)→(三三三)  
河上様 (八〇四)→(二六六)を楠田様の下に加えて下さい。
- ◎ 今年も第三木曜日におおむね、後いさ致しますので御参加下さい。
- ◎ カトリック大學生を中心とした情報誌「アフロディア」(送料共二千円)の購読希望の方はお申し込み下さい。



第105号  
 中田和子 編集  
 中田和子 編集  
 TEL 045-803-6144  
 1986年 6月 1日

六月の行事  
 6日 初金ミサ AM10:00  
 8日 委員会 ミサ後  
 15日 婦人会 クリア集山手教会  
 1日 クリア集山手教会  
 13日 } ソング集 AM 10:00  
 20日 }  
 27日 }

たかおのぶか 105号



山崎 正俊

実は、二ヶ月にわたって、そのそばを通ったほどの関係なのです。それは、まったくの偶然で、いつてもたがってしまいました。

その時、あれは、病をえて中国の戦線から帰されて、島根県浜田市にあった陸軍病院にいらして、たいてい、たいくつなまをまわらされたので、図書だなどある本を借りて読みはじめました。一度一冊だけ貸してくれるので、はじめは三百頁くらいのもので、毎日一冊ずつ借りることにしました。たいていは、仏教の教えをわかりやすく説いている、一般向けの五十冊ほどのシリーズものです。そんなものしか読んでいかなかったのです。そのうち一週間で一度しか貸し出しをしないといふことにされたので、しかたなく、それではと、大冊のものを選びました。『現代日本文学全集』(改造社版)の一冊を手にするようになったのです。それは宛判で約五百頁、二人の作家の名が並んでありました。

「下田敦」は、『海潮音』という詩集を知ってました。「園川白羽」は、『小泉八雲』(ラフカジオ・ハーン)という秀れた小説で憶えてました。いずれも、中学の国語の教科書であったものです。もうひとりの『阿部次郎』だけは、はじめの各々の『善の研究』、夏目漱石の『西田幾太郎博士の善の研究』、夏目漱石の『つかのものを』と、当時の高校生の間で、必読の書にあげられていたのを後で知りますが、ど

れも、それまでの私とは縁遠いもので、みんな始めての御対面だったわけですね。

ついでに言えば、あの緑田表紙の分厚い国語の教科書は、私の文学への入門書にもなっていたのです。島崎藤村、土井晩翠、正岡子規、岡本由歩、有島武郎、一葉亭四郎、芥川龍之介、山本有造、武者小路実篤、徳島屋花などは、その頃におぼえた名です。

それから、牛蒡派と呼ばれる「啄木」の詩歌に引込まれたり、「白萩」の語感やリズムにとらわれたりしたのですが、私にとっては、俳句は硬直してて狭苦しく、和歌はとりつきにくく、詩は思入れが多くて、値打ちがわからないもので、けっきょく、自由な散文論のものに心引かれ、「自然現象は内外の表れである」などと書いています。

「ペン」は誰にでも

「週間」といって、何か注目したくなるものです。『週間』という雑誌、何か注目したくなるものです。『週間』という雑誌、何か注目したくなるものです。『週間』という雑誌、何か注目したくなるものです。

委員会だより

- 一、会計報告  
 四月決算、機委員より会計報告が有りまして。詳細は会計又は広報委員のところにあります。
- 二、建設会計に関して、運用資金の健全な活用について、小谷副委員長に検討(ケーススタディ)をお願いしました。
- 三、委員長より、  
 ・婦人会例会の案件から結婚披露のミニアル(しおり)作成の要望が有り、この検討を典礼委員を中心に行うこと。
- ・信者の出入りに関する、確認、連絡等を担当する方、又各委員の役割を記述して会報に載せる。
- 四、山崎神父様のご出張のスケジュール  
 六月二十五日(木)より、七月五日(土)と変更になりました。

婦人会だより

- 五月の例会は十八日、千数名の出席者で行われました。
- 一、会費報告  
 ・五月十三日の確定の報告  
 好天に恵まれ、戸塚教会からの参加者四名を含む二十一名で大磯のエリサベス・サンタースホームの史料館を中心に見学しました。
- ・山崎神父様は六月二十六日から七月五日まで教会を留守にされます。その間の午前十時から午後五時まで、婦人会の方達で、お留守番をする事になりました。お留守番の当番表を掲示しますので、御都合をとりわかれる口元、お名前を記入して下さい。

編集後記

神父様ご出張中の留守番の件  
 六月26日午後から7月5日午後迄、この間壮年会、婦人会で時間のつくかたは、協力をお願い致します。(委員会スケジュール表を作成しますのでそれに記入願います。)

今日号の原稿を小谷さん、高校生友会の伊藤君、鈴木君にお願ひしましたが、スペースの都合で鈴木君には、次号に掲載させて頂きます。  
 コメンタリー M-1

高校生連の会宿に行つて



伊藤 入輝

ほくは、4日間をわたって、上大岡カトリックセンターで行われた高校生連の春の教区大会に教会の仲間と行って来ました。そのことについて少し感想を書いて見たいと思います。

僕は今日の大会でも、3回目になったわけですが、3回ともなると、センターに着けば、頭みしりが何人かいる、というふうになりました。1年生の時は回りが先輩ばかりで、知らない人ばかりだったので、その時のことを思えば、もう1年もたったのだなあと思ひました。

今回の大会を通してのテーマは「他人の立場にたつ」。というものでした。他人の立場にたつとは、どういうことか、パンフレットをもらったときいろいろ考えてみましたが、実際に自分が、他の人の立場に立つて考えるというとは、とても大切なことだと思ひました。大会中、このテーマについて、セミナーなどが行われましたが、少しわかったような気がします。他人の立場に立つても、このことを考えると、その人に対して、自分が行っていたことを見ると、あまりにも自分かその人に対して、冷たい思いしか持っていないか、なんだという感じがわかって、もっと人のことを理解しなくてはならないんだなあという気持ちになりました。

また、この4日間を通して感じたことは、よくあたりまえのことですが、やはりみんなキリスト信者なんだなあと感じました。一部では、それについてよかったです。参加した者は、それぞれいろいろものを得たと思います。また、友達もふえました。今度の会宿は夏です。また参加したいと思ひます。 ENZO

お知らせ

小谷 徳彌

- 次の方々が洗礼を受けられました。
- 五月十一日 ペトロ福田原平ちゃん(幼、大阪市)
- 五月十八日 ミカエル島倉秀和ちゃん(幼)
- ペトロ深井隆彦くん(小3)
- マリア光藤江江様
- マリアインマクラータ河上みち子様
- 五月十日 八乙女舞葉さん 浦和教会へ

二、五月十八日は聖霊降臨の祝日に当り、洗礼式があり受洗者四名のうち婦人会関係の左記のお二人の方が式後、例会に出席され、会長さんから御紹介がありました。

- マリア・光藤江江様・中田町二六二九 8801-0578
- マリア・インマクラータ河上みち子様
- 和泉町一五八五 和泉町九一九二二 8804-2616

お知らせ

故ヘルナデッタ星川恵子様の御遺骨は相模野霊園の墓地に納骨されたそうです。機会があらまじたら、是非お参り下さい。

壮年会だより

五月十八日、ミサのあと高校生会から三名出席していただいた。



「雑記帳」抄 ②

—聖なる格言集への門— 山崎正俊

隣りの教会の牧師さんは言います。『いまの教会二致運動には、カトリック教会の積極的な参加があるよ』と、これは、あまり感心できない。それによつて、私の教会の先師たちが、血の涙の労苦の末に、やっと手にいれた「尊い宝物」・良心の自由を、失われつつあるかも知れないから。あなたの親しみ易さには感謝して、その気持をせられよう、すこし心配になってきた。神はひとつ。信仰はひとつ。それはたしかにそうだが、押し付けがましい強迫まがいの、あの弱い者のいじめのせつがちな体質は、どうにかならないでしようか。ほっと。

12月の行事
7日 壮年会 ミサ後
14日 黙想会
21日 婦人会 大掃除 ミサ後
24日 (木) クリスマス PH8時~
12日 レジオ AM10時
19日

なつた尊い教え・先人の言葉を、そのまま記して読む人に訴え、その格言集に近付こうとする気を取りかせることは、もっとすべしである。
師父アブラハムの足跡に、長老は深く屈身し、胸を打ち、告白して言った。『修業の私のむしろの上で女性が待っているのを見た。触れないうつらと気をつかうでしようが、女性でないかのように振舞えないでしよう。道に落ちていようが、石ころや砂のようには見えないでしよう。私を愛している者が訪ねてきたら、二人を同じに待遇しようとするでしようが、心おだやかにできないでしよう。そうです。これまでの私が、どうにかまともな生まていたのは、聖なる人たちの熱心な祈りによつて守られていたから、違いありません。』



① 五十嵐 貞也

今回横浜教区五十周年地区実行委員の教区集会が十一月十八日(日) 横浜修業学院園遊会に於いて実施され、当教区より三名参加いたしました。其の概要を御知らせすると共に私の感想を述べさせていただきます。興りがありましたら御許し下さい。

- 一九八六年 二月 五十周年記念期間とその準備期間の確定
一九八六年 三月 司教教書(VTR)使用刷新運動についてのメッセージ
四月 教区の祈り作成
五月 地区実行委員会について検討
六月 呼びかけ1作成
八月 呼びかけ1配布
十月 地区実行委員会集合同期化に向けて
十一月 地区実行委員会教区集合同期化呼びかけ。

司教刷新の為に集るの為に実行委員会 (第一回)

十一月二日、表題の実行委員会が、地区プロックを構成する六小教区(藤沢、片瀬、大船、戸塚、中田、磯谷)の各教会の出席のもとに藤沢教会で開催されました。
中田教区からは、五十嵐壮年会長、丸田婦人会長はじめ四名が出席しました。
席上、世話役である藤沢教区ガブリエル神父様より、実行委員会の主旨、及び内容について次の説明がありました。
一、五十周年を期して、横浜司教区を十六の地区プロックに分割してそれぞれ地区実行委員会を設ける。(注) 神奈川は七プロック、山梨は一、静岡は四、長野は四)そして、各小教区より実行委員を選出してこの地区実行委員会を構成する。
二、目的は、地区の中で協力をより密にすることにより司教を実現すること。
三、この実行委員会は、行事の為に組織ではなく、まず「輪」を作ることがポイントであり、司祭、シスター、信徒が一体となった組織であること。

四、また全プロックが集まる最初の「大きな集い」が十一月十八日に横浜司教様御出席のもとに横浜修業で開催され、この集いがこれからの出発点であること。
目的、即ち「より良い司教の表現」にたいする具体的な行動指針はまだこれからであり、実行委員会を中心として教区全体で着目していくこととなります。結果された大きな力を生み出すには、全信徒の理解及び協力がなによりも必須です。
皆様の御協力をお願い申し上げます。
尚、第一回の実行委員会は、十一月十一日に藤沢教会で開催される予定です。 (小野 雅彦)

婦人会だより



十一月の例会は、十六日、出席者三十一名で行われました。(会長は「教区五十周年の集い」に御出席で留守の為、七浦副会長の司会です。
古着交換会で残った品物は福祉施設の「かにた」と「旅路の里」に送りました。
教会の十年誌編集に関して婦人会からは、宮崎幸子さん、阿部寿美恵さん、阿部映子さんが参加して下さいました。
来年度のお掃除当番表を十一月になりましたら貼り出しますので、御都合のつく週にお書き込み下さいませようお願い致します。
大水さんが婦人会に入会されました。
地区は下飯田・下和泉地区です。

委員会だより

一、藤沢教会に於いて、司教刷新の為に集る十一月二日事前会議の件(五十嵐会長からの報告)

十一時に開始のベルが鳴り、五分間の祈り黙想の間に聖書の朗読がありました。本日の黙想に入りました。
趣旨の説明
教区実行委員会は神父様五名、修道士三名、信者七名の構成にて一九八五年十一月 横浜司教様の任命にて発足いたしました。
其の趣旨は「日本の教会の基本方針と優先課題」に、そして教区福音共同体にするための刷新運動を教区レベルで推進する。

教区実行委員会は教区全体にわたる、運動を企画し、其の運動が各地で具体的な形で展開して行くために教区を十六の地区に分け地区の共同体的意見を充分に取り入れるべく地区実行委員会を設立し、その役割は地区実行委員会は教区福音共同体にするための刷新運動を各々地区で具体化、推進させるため、横浜司教様の委任を受け全面的責任をもって委任する。地区実行委員会の構成は各地区内の小教区の信者、司祭、修道士、各々グループからもれなく参加する。
教区実行委員会との関係は地区実行委員会と相互に連絡を保ち教区全体の運動を五十周年の刷新運動の目的にそって展開させ、地区実行委員会による、独自の運動の推進を助ける地区実行委員会は、指示を受けて動くこと。上下の関係でなく各地の刷新運動の主体と主役は地区実行委員会にある。

- 教区実行委員会の経過報告
一九八五年十二月
前準備期間、
一九八六年五月十八日
準備期間(意識化と祈りの期間)
一九八七年三月八日
五十周年記念期間
一九八八年五月二十二日
聖徳降臨の大祝日
一九八五年十二月 教区設立五十周年実行委員会 発足

- 婦人会 丸田会長、鈴木さん、壮年会 五十嵐会長、小野さん、が出席
会の目的、地区の中の協力をより密にして、より良い司教を実現すること。
詳細は小野書記の報告を参照してください。
一、クリスマス
二、クリスマス
三、黙想会(ゆるしの黙想) 十四日、ミサ後 指導 オカンドウ神父様
四、クリスマス ミサ、二十四日、午後八時 (ミサ後集会所で茶菓子を用意します)
三、信徒総会、六十二年一月二十五日予定
尚この準備の為、来年度から勉強を始めます。対象者は、中学生以上(来年度四月で中学生となる人達も含みます。)
四、十月決算 役員より会計報告が有りました。詳細は会計又は広報委員のところにあります。
五、案内板の設置(集会所の入口の横に掛けましたので、ご利用ください)

お知らせ

年末、年始のミサの時間について
十一月十四日(水) 午後八時
十一月十五日(木) 午前十時
十一月十七日(土) 午後七時
十一月十八日(日) 午前七時、九時
十二月一日(木) 午前十時

要請学校
・クリスマス会 二十一日(日) ミサ後
・プレゼント交換をしますので用意してください。(三百円以内の品物)
・転入
マリオ・シヨセツバ 中島 富雄
マリア・ベルナデッタ 紀子
アントニオ 信田
泉区中田町一〇三〇一三 中条荘一〇一一
電話 八〇一五二九一
皆様よろしくお願ひします。